



# 「継続は力なり」



吉野川市立鴨島小学校  
校長室だより 第31号  
令和5年10月2日

学校教育目標：自他の生命と人権を尊重し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動できる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

## 年度の折り返し ～実りの秋を迎えて～

10月（神無月）になり、早いもので令和5年度も折り返し地点を迎えました。季節はこれから秋本番に向かいます。スポーツの秋！一大イベントの運動会、がんばります！！

## 将来をたくましく生きる子どもに育てる ～「義元のおごい教育とは」～

現在放送中のNHK大河「どうする家康」に登場する主人公の「徳川家康」に関する話です。

家康の父は三河（愛知県）という小さな国を治める武将でした。しかも、三河は、織田や今川と

いう大きい国に挟まれて、とても厳しい状況に置かれていました。そこで、家康の父は、竹千代（家康の幼少期の名前）を今川義元のもとに人質として差し出し、逆らう気のないことを伝えました。しかし、竹千代を人質にした今川義元は、一目見てその素質を見抜き、このまま成長すれば将来、必ず立派な武将に成長して、今川にとって危険な存在になるだろうと予感します。そこで家来に「竹千代には、『むごい教育』をせよ！」と命じました。

数日後、義元は家来に「むごい教育をしているか？」と尋ねます。家来は、自信たっぷりに次のように答えました。「はい、仰せの通りむごい教育をしています。朝は早くから起こして水練（水泳）をさせ、食事は三食とも粗末なものを食べさせています。昼は剣術や馬術に励ませ、夜は学問と休む暇もなく厳しく教育しています。これほどの『むごい教育』はないと思われま

す。これを聞いた義元は「馬鹿者！」と激怒します。そして、次のように言いました。「それは『むごい教育』とは言わん！竹千代には、贅沢な食事を与え、朝から晩まで美味しいものを好きなだけ食べさせよ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやり、休みたいと言ったら休ませよ。夏は暑くないように涼しくしてやり、冬は寒くないよう暖かくしてやれ。武術や学問が嫌だというなら無理にやらせるな。本人の望む通りに、何でも与えてやり、好きなことを好きなだけさせて、どんなわがままでも聞いてやれ！」

家来は驚き、「それは、『むごい教育』ではなく、『楽な教育』ではありませんか？」と尋ねると、義元はこう答えました。「そのようにすれば、たいていの人間はダメになる」義元は、これから武士として生きていく竹千代の将来を恐れ、わがままを許して好きなことや楽をさせることで、「辛いことにすぐに弱音を吐き、やる気のない」骨抜き人間にしようとした。

義元という『むごい教育』とは、「厳しく教育すること」ではなく、必要以上に「甘やかすこと」だったのです。もちろん、現代の教育と戦国時代を同じように比較することはできませんし、当時とは人生観も大きく異なるでしょう。しかし、苦しさを経験させず、目の前の楽しさや安易で快適な生活だけを与えていては、将来自立し、強くたくましい大人になることはできません。また、要領よく生きることが必要ですが、面倒なことは避けて、途中の過程（道のり）を省略し、出来上がった結果だけを重視するようになってしまったら、真の「生きる力」は身に付かないように思います。

今川義元の言葉は、現代にも通じる子育てにおける大事な示唆を与えてくれているように思えます。



## もうすぐ運動会！！ ～子どもたちのがんばりに力強い声援を～

「鴨島小学校 心つながる運動会」がいよいよ週末に迫ってまいりました。子供たちは本番に向け、モチベーションも上がってきています。『みんなの笑顔を輝かせ、勝利の道へとかけぬける！！』のごとく、一生懸命がんばります！応援よろしくお願ひいたします。

「校長室・学年」だよりは、HPではカラーで見ることができます→



鴨小QRコード